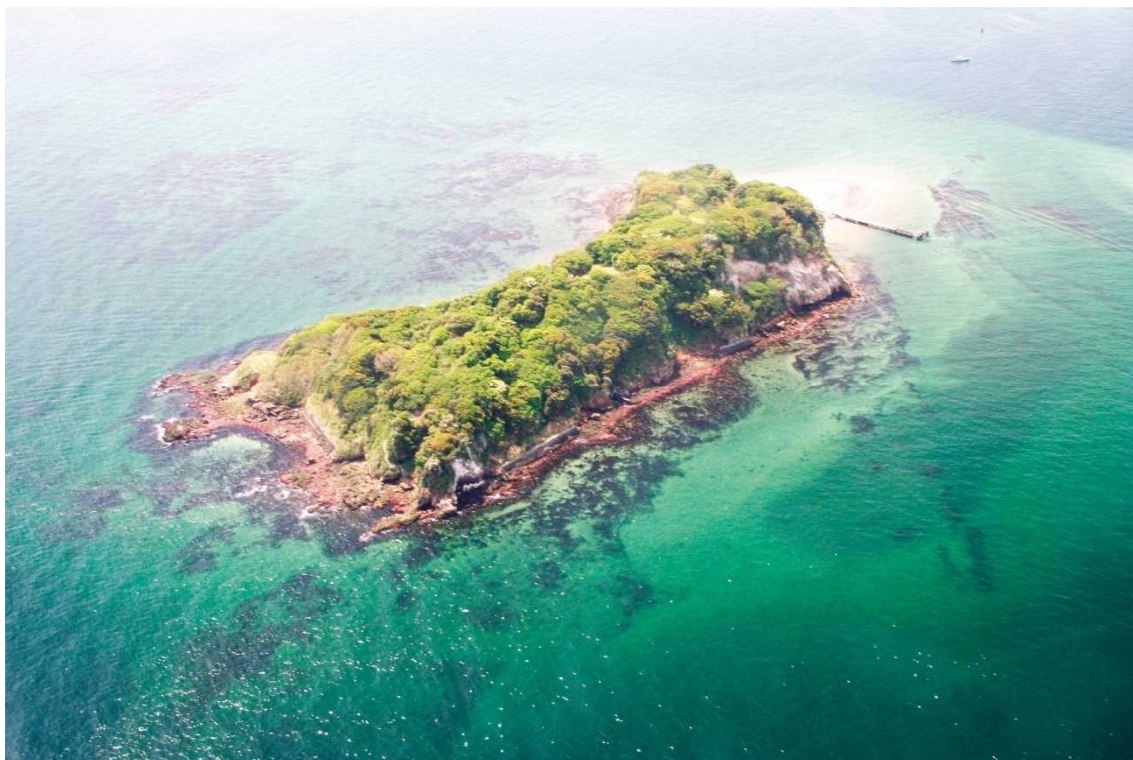


第2章 目指すまちづくりの 3つの方向性

目指すまちづくりの 3つの方向性

他にはない横須賀が持つ個性をまちづくりに生かすため、
「海洋都市」、「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市」、
「個性ある地域コミュニティのある都市」の
3つのグランドデザインを描き、
この横須賀ならではの個性に
さらに磨きをかけるための政策を推し進めていきます。



1
海洋都市



2
音楽・スポーツ・
エンターテインメント
都市



3
個性ある
地域コミュニティの
ある都市



海洋都市

～ 可能性に満ちた海を活用します ～

横須賀の海は、2つの顔を持っています。東海岸側には、国内外の物流拠点となる港や海洋に関する研究機関が立地しています。また、近代日本の発展の礎となった歴史遺産などが各所に点在しています。

西海岸側には、風光明媚な海岸線やみどり豊かな自然を有しており、それぞれに多様な魅力と大きな可能性があります。この可能性に溢れた横須賀の海を、最大限まちづくりに活用していきます。

○物流拠点の整備・利活用

横須賀の最大の港である新港ふ頭では、令和3年（2021年）7月に横須賀と北九州を結ぶフェリー就航が実現し、新たな海路ができました。

令和7年（2025年）には圏央道と横浜横須賀道路の接続が予定され、また、国道357号線の延伸も進められています。こうした動きによって、首都圏における横須賀の物流拠点としての価値が高まっています。

この新しい動きを契機に、横須賀インター周辺地区に物流関連企業の誘致を進めるほか、新たな港を整備するなど、物流の要所としての地位をより高めることで、地域経済に好循環を生み出していきます。



▲東京九州フェリー「はまゆう」



▲フェリーターミナル

○研究機関との連携

横須賀には、世界に誇る技術を有する研究機関が多く立地しています。

特に、深海や気象など、様々な海洋科学の分野で活躍する JAMSTEC（海洋研究開発機構）と連携し、子どもたちが海の仕事を体験できる海洋クラブの開催や、海洋プラスチックごみ研究のためのデータ収集など、様々な取り組みを行います。

また、市内外の研究機関や民間企業等と連携し、ブルーカーボン（藻類などの生物を増やし、二酸化炭素吸収量を増やす仕組み）や水産業への水中ドローンの活用など、海を活かした取り組みを進めていきます。



▲ JAMSTECの有人潜水調査船



▲ 海洋クラブ

○海を生かした集客の仕掛けづくり

東海岸側に点在する近代日本の発展の礎となった歴史遺産を生かして集客を進めます。東京湾唯一の自然島の猿島では音楽やアートのイベント、ヴェルニー公園周辺の海では、夜の軍港を巡る夜間クルーズ、横須賀ならではの海上自衛隊による国際観艦式との連携など、海を活かした取り組みを進めます。

また、うみかぜ公園では新たなエンターテインメントの仕掛けづくりを、桜の名所として知られる走水水源地公園では飲食店等を誘致し利活用を図るなど、海が一望できるロケーションを生かして、より多くの集客を図っていきます。



▲ 猿島



▲ うみかぜ公園

○レンガドックを中心とした浦賀地区の展開

令和3年（2021年）3月に住友重機械工業株式会社から寄附を受けた浦賀レンガドックは、1,000隻以上の船の製造や修理を行ってきた歴史ある造船所で、レンガ造りのドライドックとしては、世界でも最大級の希少な施設です。

この貴重なレンガドックの知名度を高め、近隣の千代ヶ崎砲台跡などと併せて、観光拠点として集客を図るとともに、地域全体の活性化に向けて民間投資を呼び込んでいきます。



▲浦賀レンガドック



▲千代ヶ崎砲台跡

○西海岸の特長を生かした取り組み

風光明媚な海岸線やみどり豊かな自然を有しており、農漁業が盛んな西海岸側では、県内でも有数の集客施設であるソレイユの丘のリニューアルを進め、さらなる集客を図っていきます。さらに、楽しみながら働けるよう、民間企業と連携してワーケーション環境の整備も進め、時代に即した新たな働き方を発信します。

また、美しい海岸線などのロケーションを生かすため土地利用の規制緩和を行った地域に、民間企業等の進出を図っていきます。

さらに、藻場の再生やよこすか野菜のPRを含む、農漁業の振興を図っていきます。



▲ソレイユの丘



▲立石公園から見る西海岸

(海洋都市)

北地域

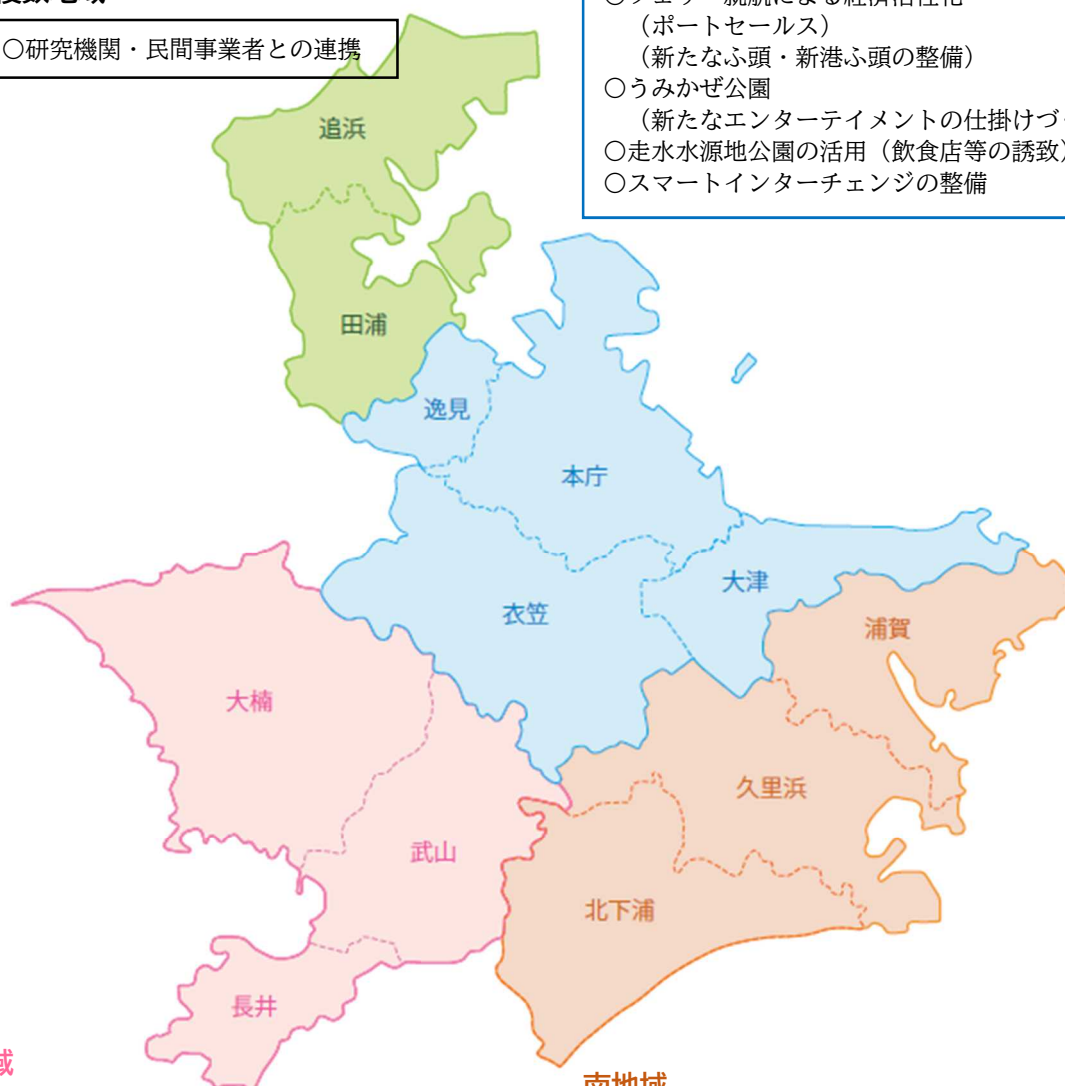
○JAMSTEC（海洋研究開発機構）との連携

複数地域

○研究機関・民間事業者との連携

東地域

○海上自衛隊国際観艦式との連携
○ヴェルニー公園周辺での夜間クルーズ
○猿島を活用したイベント
○フェリー就航による経済活性化
（ポートセールス）
（新たなふ頭・新港ふ頭の整備）
○うみかぜ公園
（新たなエンターテインメントの仕掛けづくり）
○走水水源地公園の活用（飲食店等の誘致）
○スマートインターチェンジの整備



西地域

○ソレイユの丘
（リニューアルとワーケーションの取り組み）
○秋谷・佐島地区など
（規制緩和、民間投資の呼び込み）
○ブルーカーボンの推進
○西海岸の藻場再生
○食害生物除去の支援

南地域

○浦賀レンガドック（周辺部）の活用と
地域全体の活性化

※一部、民間事業者が主体となる取り組みを含みます

音楽・スポーツ・

エンターテインメント都市

～ ワクワクがあふれるまちづくり ～

横須賀には、自然、歴史、文化など多彩な魅力を持つ地域資源がたくさんあります。これらの地域資源を生かし、音楽・スポーツ・エンターテインメントの力を融合させて、新たな魅力を創造します。

ワクワクがあふれるまちづくりを進め、市民が地元を楽しみ、まちに誇りや愛着を持つことはもちろん、市外に横須賀ブランドの魅力を発信し、集客につなげます。

○エンターテインメントで楽しさいっぱいのまちづくり

～ 旅人になれるミュージアム “ルートミュージアム” ～

横須賀に点在する開国から近代につながる歴史、文化の見どころや自然豊かなスポットをルートでつなぎ、市内全体を大きなミュージアムとしてとらえた「ルートミュージアム」。このミュージアムを充実させ、多くの方に横須賀を巡っていただきます。

はじまりの場所となるヴェルニー公園内のティボディエ邸では、館内の装飾を強化し、当時の雰囲気をもっとリアルに再現するほか、横須賀の歴史を3DCGの大型スクリーンで体感できる新作ムービーを公開します。

また、イルミネーションの実施やティボディエの母国・フランスにちなんだフェアを開催し、令和4年（2022年）秋のレストラン開業と併せて公園全体を盛り上げ、さらなる魅力でお客様をお迎えします。



▲ティボディエ邸



▲ヴェルニー公園のレストラン

ルートミュージアムのサテライト施設では、その魅力を高める様々な取り組みを進めます。

世界3大記念艦三笠がある三笠公園は、新たな魅力の創造に向け、リニューアルの検討を進めます。また、隣接するポートマーケットは、飲食・お土産などが揃った観光集客の核として、令和4年（2022年）中にリニューアルオープンします。

うみかぜ公園では、民間企業と連携した新たなエンターテインメントの仕掛けづくりを行い、隣接する、よこすか海岸通りのイベントやアート、リニューアルと合わせて賑わいを創出します。

また、横須賀には異国情緒があふれた商店街や、昭和の香りが感じられる個性豊かな商店街が存在しています。その魅力をさらに高めることで、誘客につなげ、地域を盛り上げていきます。

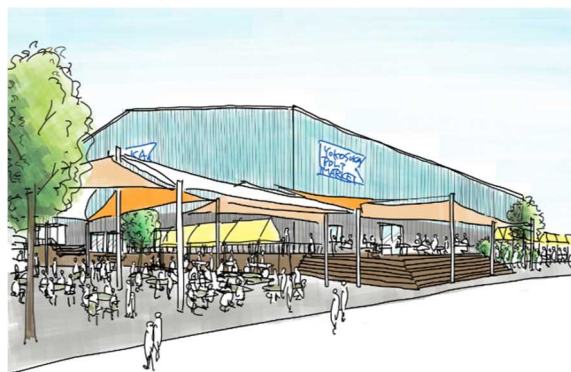
魅力的な景観を持つ横須賀美術館は、これまでにない企画展の開催など、チャレンジ的な取り組みにより、集客力向上の新たな取り組みを進めます。

また、世界有数の施設である浦賀レンガドックと国史跡の千代ヶ崎砲台跡の活用によって、浦賀地区の魅力を高めるための取り組みを進めます。

横須賀の平和の象徴として存在してきた、平和中央公園では、音楽やアートの力も活用し、公園が持つ平和への思い・願いを多くの方に伝えていきます。



▲平和中央公園



▲ポートマーケットのリニューアル



▲横須賀美術館

西海岸側ではソレイユの丘が令和5年（2023年）にリニューアルオープン。グランピング施設やカフェレストランなど、新たな魅力を生むリニューアルを行い、さらに人を呼び込みます。

そのほか、市内には、令和4年（2022年）に放送のNHK大河ドラマに関連する文化財等が多く点在することから、衣笠地区などで誘客のための支援を行います。



▲ソレイユの丘のリニューアル

○音楽やダンス、アートの力を活かしたまちづくり

市内の様々な場所で、様々なジャンルの音楽が楽しめるロックやジャズなどの大規模なイベントを開催します。また、音楽をより身近に感じられる「街なかピアノ」を増設するなど、横須賀のまち全体を”音楽”で楽しめる「街なかミュージック」の取り組みのさらなる充実を図ります。



▲大規模音楽イベントの開催（イメージ）

幅広い世代で親しまれるようになったダンスは、人々の心を高揚させ、ワクワクさせる力があります。

ヒップホップダンスなどのストリートダンス大会を誘致して、まち全体を盛り上げます。

また、街なかで誰もが気軽にダンスを楽しめるよう、屋外でのダンス練習環境をつくるほか、夢に向かって努力する若い才能を応援するため、高校生ダンス大会の東日本大会の誘致や、市内中高生の活動を応援していきます。



▲ストリートダンス大会（イメージ） ▲高校生ダンス大会（イメージ）

アートの力も生かして、横須賀の魅力を発信し、にぎわいを創出していきます。

東京湾唯一の自然島である猿島では、夜間のアートイベント「Sense Island -感覚の島-」などのイベントを開催します。また、よこすか海岸通りではウォールアートの整備を進めます。



▲「Sense Island 感覚の島」

photo by Naomi Circus © Sense Island 2019

齋藤精一 JIKU #004 SARUSHIMA Sense Island2019年の展示風景

○スポーツの力を活かしたまちづくり

横浜DeNAベイスターズや横浜F・マリノスのホームタウンとして、プロスポーツチームと連携した取り組みをさらに進めます。

追浜を拠点とする「横浜DeNAベイスターズ」との連携では、現役選手やチアリーダーが小学校や幼稚園などを訪れ、野球を通して子どもたちとふれあう機会を設けるなど、様々な取り組みを行っていきます。

また、DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKAなどで行われる秋季トレーニング時には、市内の子どもたちを対象としたイベントなどを実施し、トップアスリートを身近に感じることのできる環境づくりを推進するとともに、地域のにぎわいを創出します。

また、令和4年度（2022年度）に久里浜に「横浜F・マリノス」練習場がオープンします。これを新たなにぎわいや地域の活性化につなげるために、久里浜の街なかをマリノスのチームカラーであるトリコロールで装飾するほか、パブリックビューイング観戦を実施するなど、市民や地元商店街、事業者などと協力しながら様々な取り組みを行い、スポーツを核としたまちづくりを進めていきます。



▲DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKA



▲横浜F・マリノス練習場（イメージ）



▲選手と小学生のふれあい

横須賀の海を生かしたマリンスポーツの取り組みでは、引き続き、津久井浜海岸でのウインドサーフィンワールドカップの開催、ナショナルチームの合宿誘致、ジュニアアスリートの育成などを行っています。



▲ウインドサーフィンワールドカップ

また、現在もスケートボードやBMXの愛好者でにぎわっているうみかぜ公園では、BMXフリースタイルジャパンカップの誘致を進めます。

最近、特に若い世代を中心に活動の広がりを見せているeスポーツでは、市内高校の部活動支援や大会の開催などを行い、アーバンスポーツやeスポーツの聖地化に向けた取り組みを進めていきます。

このようにスポーツを通じ、市民が夢を抱き、多くの賑わいにつながるまちづくりを進めます。



▲BMXフリースタイルジャパンカップ ▲eスポーツ大会
(イメージ)

(音楽・スポーツ・エンターテインメント都市)

北地域

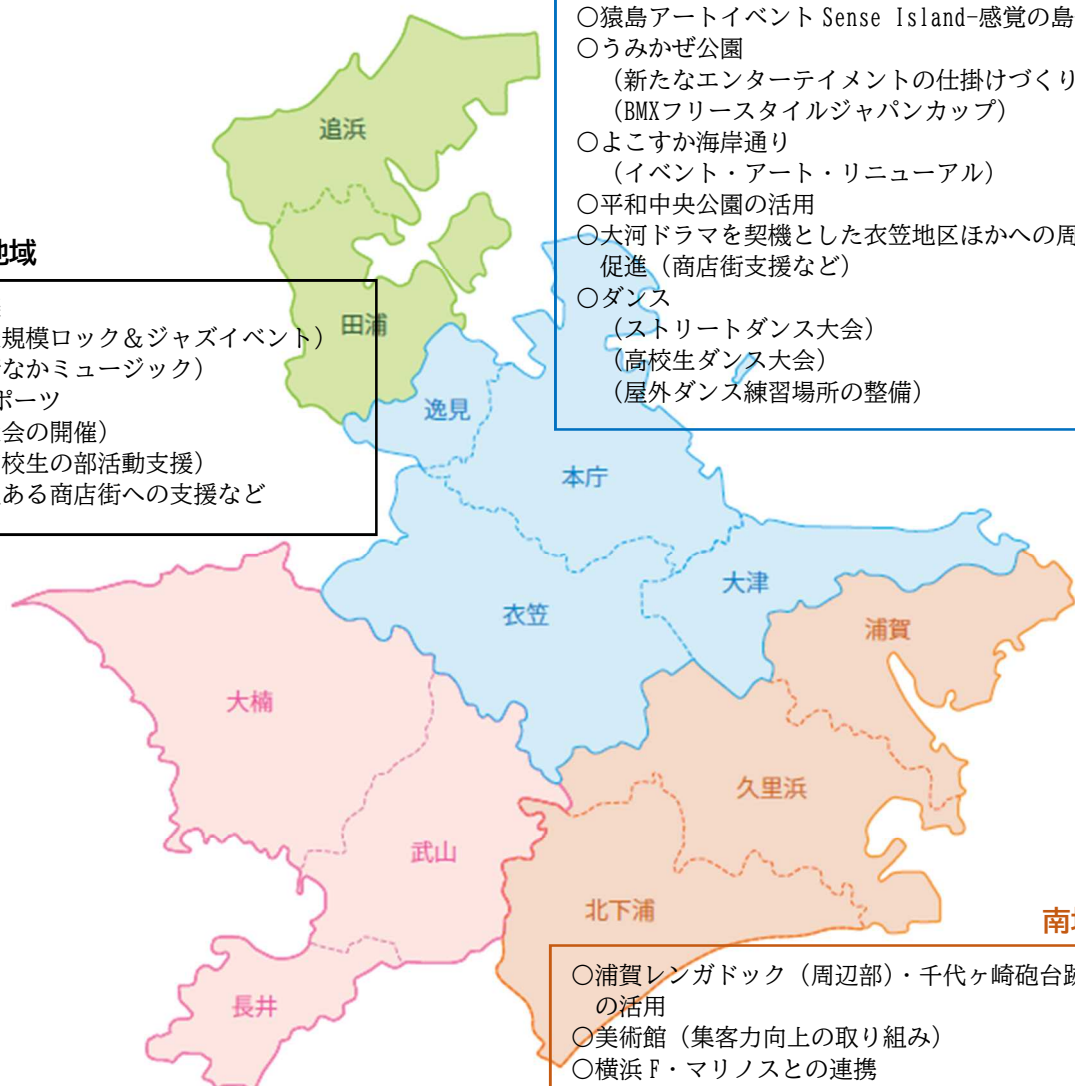
- 横浜 DeNA ベイスターズとの連携
(秋季トレーニング時の小学生等野球教室など)

東地域

- ティボディエ邸の魅力アップ
- ヴェルニー公園内のレストラン開業
- 三笠公園のリニューアル検討
- ポートマーケット (リニューアルオープン)
- 猿島アートイベント Sense Island-感覚の島-
- うみかぜ公園
(新たなエンターテインメントの仕掛けづくり)
(BMX フリースタイルジャパンカップ)
- よこすか海岸通り
(イベント・アート・リニューアル)
- 平和中央公園の活用
- 大河ドラマを契機とした衣笠地区ほかへの周遊
促進 (商店街支援など)
- ダンス
(ストリートダンス大会)
(高校生ダンス大会)
(屋外ダンス練習場所の整備)

複数地域

- 音楽
(大規模ロック&ジャズイベント)
(街なかミュージック)
- eスポーツ
(大会の開催)
(高校生の部活動支援)
- 個性ある商店街への支援など



西地域

- ソレイユの丘 (リニューアル)

南地域

- 浦賀レンガドック (周辺部)・千代ヶ崎砲台跡
の活用
- 美術館 (集客力向上の取り組み)
- 横浜 F・マリノスとの連携
(練習場のオープン)
(久里浜のまちの装飾など)
- ウインドサーフィン
(ワールドカップの開催)
(ナショナルチームの合宿)
(ジュニアアスリートの育成)

※一部、民間事業者が主体となる取り組みを含みます

個性ある地域コミュニティの ある都市

～ 住民同士が支え合う、安心して楽しく暮らせる地域をつくります ～

都市部でありながら、住民同士の支え合いがある横須賀のコミュニティを次の世代に受け継ぐための地域づくりを進めます。

谷戸・高台といった横須賀の地形的な特徴を個性にとらえ、アーティストやクリエイターなど、多彩な才能を持つ方々と地域の方とつなぐことで、個性ある新たなコミュニティを生み出します。

身近な地域で相談できる環境を整えることで、市民の不安の解消、困りごとの解決につなげます。また、市民の健康を守るため、赤ちゃんから高齢者まで一貫した保健活動の取り組みを新たに開始します。

○小学校を拠点にしたコミュニティづくり

小学校を拠点に、様々な世代・多様な主体と一緒に交流を深める「スクールコミュニティ」の取り組み。

これを市内各所に広げ、その地域の実情にあったコミュニティづくりを進め、住民同士が支え合う力を高めていきます。



▲小学校での交流
(スクールコミュニティ)



▲地域での清掃活動

○谷戸の魅力を活かしたコミュニティづくり

横須賀特有の地形である谷あいのある場所「谷戸」は、横須賀らしさの一つです。この谷戸に地域の交流に意欲的なアーティストを誘致し、芸術や文化を通じた地域コミュニティの活性化に取り組んでいます。

田浦地区の HIRAKU（アーティスト村）に続き、新たに逸見地区にある上下水道局の旧待機用宿舎を THE Base APARTMENTS（ザ・ベースアパートメント）と名付けて、クリエイターなど多彩な才能を持つ方々に居住してもらい、地域交流やイベントを通じて、新たなコミュニティづくりにつなげます。



▲HIRAKU（アーティスト村）



▲楽しい陶芸体験



▲染物づくりを通じた交流

○身近な地域で相談を受け、

困りごとの解決に確実につなげる体制づくり

身近な地域で日々の悩みや困りごとの相談を受け、問題の解決につなげていく体制づくりを進めます。

地域に最も身近な行政センターのすべてに相談担当を配置し、解決に向けたサポートを行っていきます。

また、地域の方々の健康を守るため、各地区の健康福祉センターにおいて地区担当保健師が、赤ちゃんから高齢者まで、一貫した保健活動に取り組み、生涯を通じた様々な課題に対応していきます。



▲困りごとへの相談対応



▲保健師による介護予防活動



▲福祉の総合相談窓口（ほっとかん）

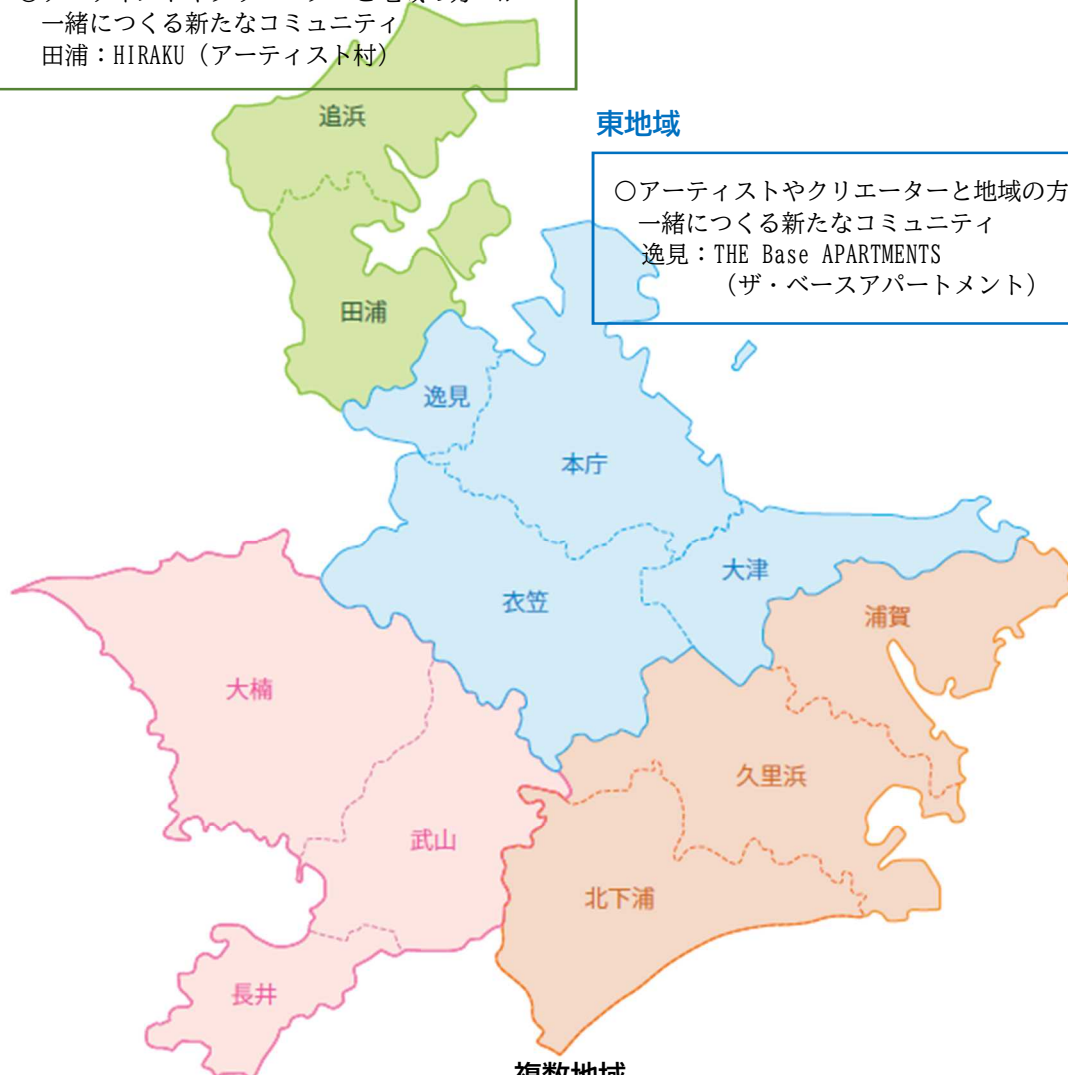
(個性ある地域コミュニティのある都市)

北地域

- 関東学院大学の学生との地域交流拠点
追浜：守谷ノ間（もりやのま）
- アーティストやクリエイターと地域の方々が
一緒につくる新たなコミュニティ
田浦：HIRAKU（アーティスト村）

東地域

- アーティストやクリエイターと地域の方々が
一緒につくる新たなコミュニティ
逸見：THE Base APARTMENTS
（ザ・ベースアパートメント）



複数地域

- スクールコミュニティ（20校まで拡大）
- 地域生活相談担当（全行政センターに拡大）
- 地区担当の保健師による赤ちゃんから高齢者まで
一貫して支える全世代型の保健活動
（各健康福祉センター）